

東京湾奥の羽田空港周辺にカサゴ稚魚放流！

令和4年9月14日に都漁連内湾釣漁協議会（小島一幸 会長他5名の方々）の御協力をいただき、羽田空港D滑走路北側のスリット護岸周辺水域において、カサゴ稚魚2万尾を放流しました。当協会では平成7年からカサゴ放流事業を開始し、平成18年以降は毎年2万尾の放流を継続して行っています（これまでの放流実績 <http://tokyoto-naiwan.server-shared.com/houruo.html>）。

今年の稚魚は、平均全長7.6cm（平均体重7.6g）で、輸送中にへい死する個体もなく、放流後は水深3～5mの海底に向かって元気に泳いでいきました。

カサゴは定着性が強く大きな移動をしないことが知られており、放流後もこの海域に留まると思われます。当協会が羽田空港D滑走路周辺で行っている調査では、18～21cmを中心に様々なサイズのカサゴが延縄や刺網で採捕されており、また、近年では5cm前後の幼魚の生息も確認されており、これまでの放流効果と考えられます。

当協会では、今後も豊かな東京内湾を目指して放流事業を継続していきます。



カサゴの積込作業



D滑走路護岸周辺で放流



放流したカサゴ種苗